

大伴小だより

富田林市立大伴小学校 令和3年8月30日（月）9月号

とうきょうおりんぴっく
“東京オリンピック”から

こうちょう つつみ しゅうさく
校長 堤 周作

2学期も緊急事態宣言下でのスタートとなりました。感染力の強い変異株の拡大により、3密ではない状況でもクラスターが発生している事案も確認され、感染者数の収束には至っていません。

このような状況に鑑み、今後も学校と家庭が連携して感染症対策を講じていかねばなりません。

本校では通常の教育活動はより一層の感染対策を施しながら継続するとともに、一生の思い出に残る行事や子どもたちの学校生活に潤いをもたらす行事は、縮小や延期を含めて実施を模索するとの方針の下、変異株は子どもにも感染しやすいことを念頭において検討してまいります。

また、感染状況によっては登校日のPTA清掃中止のような、急な変更をお願いすることもあるかと思えます。そのような場合は、私たちの葛藤の過程を子どもたちに丁寧に説明し、保護者の皆様にも理解を得ていきたいと考えています。2学期も皆様のご協力について、切にお願い申し上げます。

さて、異例づくめ（1年延期、大部分が無観客等）の“東京オリンピック”が17日間の大会の幕を閉じました。7月20日一学期終業式（2分割で実施）で、2日後に始まる“東京オリンピック”について話しました。内容は、五輪のマークの意味や開会式の見どころ（入場行進の順番、聖火の意味）等を説明した後、自分の経験から、次のような趣旨を述べました。

- ①日本国内で開催されるオリンピック（夏季）は一生に一回あるかどうか。今はコロナで盛り上がっていないが、始まったら感動する物語がたくさんある。できれば、開会式から見てみよう。
- ②オリンピックは4年毎にあるので、感動の思い出とともに、その頃の自分を思い出す。
- また、その時代に生きていた全ての世代の人たちと、共通の思い出が残り、話ができる。
- ③直向きに競技する選手の姿を見て、努力することの尊さ、チームで協力することの大切さ、負けても全力を尽くしたならばそれで立派である事などを感じることができる。感じたことを日々の生活や、10月末に開催予定の運動会に役立ててほしい。

蒸し暑い中、みんなしっかりと聞いていましたが、低学年には難しかったと反省しました。ただ、「オリンピックを見てみよう」という、私の思いは伝わったのではないかと思います。

このオリンピック、予想以上に感動の場面や奇跡の場面がたくさんありました。紙面でその全てを列挙できないので、私が特に印象に残り、子どもたちに伝えたい場面を紹介します。

(1)スケートボードで金メダルをとった松原市の中学2年生西矢さん。失敗しても笑顔で戻ってきたかと思えば、いい演技をした他の選手をたたえる。欲がなさそうなのに飄々と難度の高い技を決める。そして逆転！選手たちはよく転ぶけどその度に励ましあう。そこには国境はなく、年の差もない。あるのは「個々へのリスペクト(尊敬)、友情、連帯、フェアプレーの精神」。

(2)卓球混合ダブルス（水谷・伊藤ペア）の準々決勝対ドイツ戦。互いに点を取り合う激しい展開で3対3の最終第7ゲームに。リズムに乗ったドイツペアが連続得点で一気に点差を広げて0-5に。その後も2-9になり絶体絶命。それから驚異的な追い上げて10-10のデュースに持ち込み、手に汗握る緊迫の攻防戦を粘りに粘り、最後は16-14で決着。劇的な逆転勝利でベスト4に入り伊藤さんの涙涙。「この驚異的な粘りが、その後の卓球史上初の金メダル獲得の原動力」に。

(3)敗れて強く印象に残ったシーンでは、陸上男子400mリレーのつながらなかったバトン。予選で不調だったため、決勝ではリスク覚悟で「攻めのバトン」を敢行し、第1→第2走者で失敗。走ることができなかったアンカーの小池さんは、「失敗した。でも、だから次から守りに入るんじゃないくて、これからも攻めていきたい。そしていつかメダルを取りたい。」

サッカー男子3位決定戦で敗れた直後の久保さんの大きな悔し涙、「今日の負けは重い。サッカーやっけてきてこんな悔しいことはない。この気持ちを忘れないようにしたい。ありがとうございました。」

たゆまぬ努力、諦めない強靱な心、プレッシャーに打ち勝つ精神力、いい意味で楽しむ平常心、助け合い励ましあうチーム力、つらい敗戦を一旦受け止めて前を向こうとする回復力など、子どもたちもご家族と応援して様々なことを感じ、子どもなりに得たものがあったことでしょう。出場した選手たちは今、極度の重圧から解放たれ、自分の競技を伸び伸びと楽しんでいるように見えます。

次の夏季オリンピックは3年後の2024年、フランスのパリで開催され、その時、6年生は中3で高校受験を控えた夏休み、4年生は中1、1年生は小4です。

その4年後の2028年はアメリカのロサンゼルスで開催。6年生は働いてるか大学1年か専門学校か浪人か？5年生は高3、3年生は高1、2年生は中3で受験生になっています。その頃、子どもたちは、私たちは、どのように成長し、どんな生活をしているのか？興味深いところです。